



山鹿市立山鹿中学校 主幹教諭

## 吉野 栄治

生年月日 昭和 40 年 9 月 28 日

学 歴 平成 元年

福岡教育大学教育学部卒業

指 導 歴 平成 元年～

松橋町立豊川小学校 男子球技部

(ソフトボール、ハンドボール、サッカー)

平成 4 年～

山鹿市立山鹿中学校 野球部

平成 9 年～

鹿本町立鹿本中学校 野球部

平成 16 年～

菊鹿町立菊鹿中学校 野球部

平成 21 年～

山鹿市立山鹿中学校 野球部

※平成 17 年～ 22 年 6 年間

熊本県中体連 軟式野球専門部長

# 「中学生のこころとからだ」 —スポーツ指導者の立場から—

山鹿市立山鹿中学校主幹教諭

吉野 栄治

## 1 はじめに

### ・現代の中学生のこころとからだ

子どもの心の成長にかかわる現状については、子どもを取り巻く環境の変化、家庭や地域社会の教育力の低下、体験の減少等の中、生命尊重の心の不十分さ、自尊感情の乏しさ、基本的な生活習慣の未確立、いわゆる小1プロブレムや学級崩壊などに見られるような自制心や規範意識の低下、人間関係を形成する力の低下など、子どもの心の活力が弱っている傾向が指摘されている。

また文部科学省では、国民の体力の現状を明らかにし、その結果を国民の体力づくり、健康の保持増進に役立てるため、「体力・運動能力調査」を昭和39年から毎年実施しており、この調査結果によると、子どもの身長や体重など体格は向上しているものの、50メートル走やソフトボール投げなどの体力・運動能力は、昭和60年頃と比較すると低い水準にとどまっている。子どもの体力の低下の原因としては、外遊びやスポーツの重要性を軽視する国民の意識、都市化・生活の利便化等の生活環境の変化、睡眠や食生活等の子どもの生活習慣の乱れのような様々な要因が絡み合い、結果として子どもが体を動かす機会が減少していると指摘されている。

### ・なくなってきた3つの「間」

現代の子どもたちが一番人気の遊びはテレビゲームである。アンケート結果では、小学男子の9割以上がふだんテレビゲームをしており、2時間以上テレビゲームに接している割合も半数近くにのぼる。テレビゲームで遊ぶ子どもは、心理傾向として共感性やコミュニケーションにおける忍耐力が低くなる傾向がみられるといわれている。父親の世代では外遊び時間が2.7時間であったのに、今の子どもはほぼ半分の1.5時間であるが、室内遊びの時間は父親の世代より長く1.3時間に増えている。遊び場所は、父親の世代が空き地や山川・田畑などの屋外が中心であったが、今の男の子は室内がもともと多くなっている。子どもたちの周りからは空き地や山川という遊び場が失われてしまっている。子どもの遊びには「遊び時間」「遊び空間(場所)」「遊び仲間」の3つの「間」が必要といわれており、遊び仲間の人数は、父親の世代では5人以上が圧倒的であったが、子どもの世代では3~4人である。また、父親の世代では年上や年下が仲間に混ざっていて、教えられたり教えたりという上下のコミュニケーションを体験してきたが、今の子どもの遊び仲間は同年齢がほとんどである。

## 2 運動部活動の現状と課題

### ・運動部活動の意義、役割

運動部活動は、児童・生徒がそれぞれの興味関心に基づき、学年・男女の枠を越えて共通の目標に向かって、自主的自発的に行う活動であり、教育目標を達成する上で重要な役割を果たしている。

### ・運動部活動の現状と問題点

時代の変化に伴い、子供たちの意識や価値観も多様に変化し、運動部イコール勝利志向という従来の一般的な部の在り方にも変化が現れ始め、楽しみを第一と考える生徒が増加してきた。また、生徒

数の減少や顧問指導者の高齢化等、運動部活動を支える環境にも大きな変化が出てきている。

### 3 野球指導を通して感じること

#### ・野球部員数の変位

日本中学校体育連盟の調査によると、

平成14年度の軟式野球部員数・・・314,022名

    熊本県の部員数・・・5,913名

平成23年度の軟式野球部員数・・・280,917名

    熊本県の部員数・・・5,495名

平成14年度のサッカー部員数・・・206,750名

    熊本県の部員数・・・4,273名

平成23年度のサッカー部員数・・・237,783名

    熊本県の部員数・・・4,324名

#### ・キッズサッカーの驚異

部員数の変位を見てもわかるように、最近はサッカーが人気である。生徒数が減少しているにもかかわらず、サッカーをしている生徒は増加している。日本中学校体育連盟の調査している部員数は、学校の部活動に所属している生徒だけなので、クラブチームに所属している生徒も含めると、サッカー人口は更に増えることになる。これは近年のサッカー人気だけでなく、保育園・幼稚園の幼児からできるスポーツであるという点も見逃せない。野球は保育園・幼稚園の幼児ではキャッチボール、バッティング等、単発では取り組めるが、ゲームまではできない。こう考えるとこれからもますますサッカー人口が増え、野球は廃れていくのではないかという心配が出てくる。そのためか以前と比べると、野球がうまくできない生徒が多くなっている気がする。上手に自分の体を操ることができない、いわゆる野球の動きがぎこちない生徒が増えてきている。

#### ・部活動中によく起こる障害

最近の部活動指導を通して、多い障害は、疲労骨折である。野球指導が長くなってきているため、いわゆる野球肘や肩を痛めないようにすることには注意を払っている。しかし、最近の生徒は肘や肩を痛めるケースより、腰や足の疲労骨折といったケースが増えている。疲労がたまるほどの練習はしていないつもりであるが…。これも運動不足や食生活の変化により、中学生のからだが弱くなっているのだろうか？

### 4 まとめ

#### ・これからの中学生のころとからだ

以前と比べると弱くなった印象の中学生のころとからだであるが、これからもスポーツ指導を通していい意味でころとからだを鍛えていきたい。